

判読しづらいものの、紫の上が亡くなる悲しい場面を、長い連綿と行の重なりにより、読み手に強く印象づける効果を上げています。

を傾けたりする必要がありません。83ページ①②④の連綿にどのような工夫がされているかを考え、速度やリズムを意識しながら練習してみましょう。

①②③のように、連綿する部分を実線でつなげた場合を形連、④のように、実際に続いていなくても筆脈が通っている場合を意連といいます。

形連

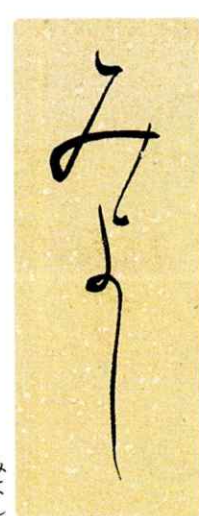
① 文字の中心が通った連綿



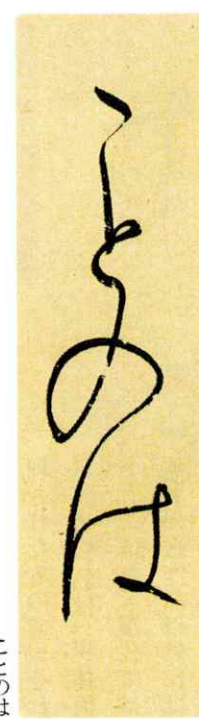
これ



うた



みよし

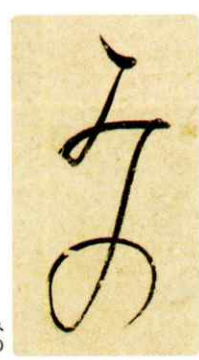


このは

② 文字の中心が移動しながら書かれた連綿



こり



みの



いひし



よろこび

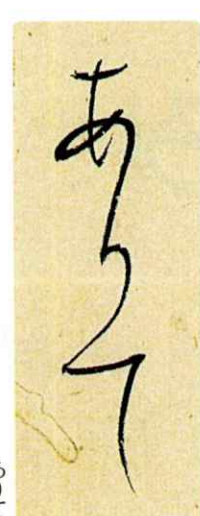
③ 収筆や起筆を省略してつなげた連綿



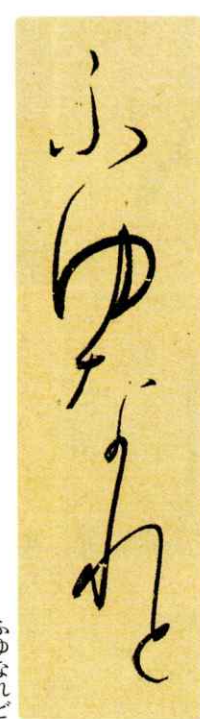
こと



ひつ



ありて



ふゆなれど

意連

④ 意連



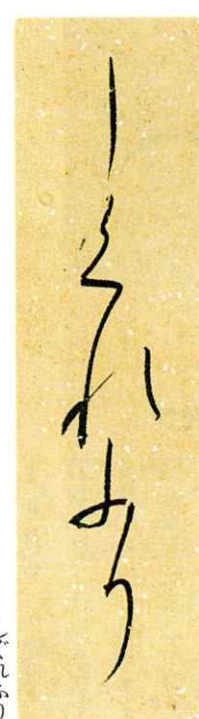
こと



やま



ゆめの



しぐれふり